研究ノート

看護教育看図アプローチ研究会「連続開催」報告
―2021 年 3 月 21 日・23 日 by Zoom―

石田ゆき [1)]
ISHIDA Yuki

キーワード：看図アプローチ・看護教育・多職種連携・オンライン研究会・Zoom

Ⅰ．１年越しの研究会開催は「連続」で！

2021 年 3 月 21 日・23 日と２回連続で「看護教育看図アプローチ研究会」が開催されました。しかも初の Zoom による「オンライン」開催です。この研究会は「全国看図アプローチ研究会」が主催し，看護教育分野で活躍しておられる山下雅佳実先生（中村学園大学・全国看図アプローチ研究会事務局長）と菊原美緒先生（防衛医科大学校）が中心となり企画・実施されたものです。２日間で延べ約 120 名の皆様にご参加頂きました。ご参加くださいました皆様，誠にありがとうございました。

当初，2020 年 3 月に早稲田大学（開催校責任者李軍先生）で「2020 年度第 2 回全国看図アプローチ研究会」を開催する予定でした。しかし，新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け，やむなく中止となってしまいました。このときはすぐに「ではオンラインで」ということにはならなかったので，発表者はもちろん会員の無念はそれはそれは大きなものでした。今回の研究会はそんな思いを払拭すべく，新しいかたちでの研究会として企画されました。

さて今回は「看護教育」を冠した研究会ですが，基盤となっているのは「看図アプローチ」です。看図アプローチは汎用性が高く，様々な分野に適用可能な，「みること」を重視した授業方法です。これまでの研究で，「看図アプローチは看護教育にもよく馴染む」ということが何度も確認されてきました。そこで，看図アプローチを活用した看護教育分野の実践を体験的に理解できる会にするため，スタッフは様々な準備をすすめてきました。

次に各日程の発表・ワークショップの様子についてお伝えしていきます。両日とも参加された方は思い出にひたってください。１日のみご参加の方は，一方でどのような発表がなされたのかご確認ください。両日とも参加されなかった方には，看護教育における看図アプローチの活用が現在どのようになされているのか一例を知って頂ければと思います。

Ⅱ．１回目プログラム（３月 21 日）

Ⅱ－１　鹿内信善先生（天使大学）の発表

今回の研究会では「看護教育の人でなくても取り組みやすいこと」「多職種連携を意識すること」も重要なテーマになっていました。鹿内先生はそのようなテーマに見合うワークショップ内容を考えました。少しややこしいのですが，その内容について少し語らせてください。

以前，共同研究の中で，一級建築士の資格をもつ教員と工学を専門とする教員が担当する「くら

1) 日本医療大学

しと景観」「まちづくり概論」「景観行政論」の授業[注1]を，教育心理学を専門とする鹿内先生と美術教育を専門とする筆者（石田）が設計し実践しました。その授業づくりはまさに多職種連携によって行われました。そしてその授業をアレンジして，筆者（石田）が医療系大学の「教育学」の授業として実施しました。今回はそれを，鹿内先生がさらにアレンジし，30 分のワークショップとして追実施しました（図 1 ）。

ワークショップでは，２つのまちの景観写真をチャットを活用しながら読み解いていきました。取り出した「もの」から，それぞれのまちの「特色」について読み解いていきます。「もの」発問でリソースを収集し,「どんな特色？」という「こと」発問に発展させていくというプロセスですすめていきました。

まとめとして学生の授業後感想が紹介されました。授業者から「自身のキャリア意識と結びつけて書いて」と指示しているわけではないのに，学生さんたちは自ら「主体的に」キャリア意識と関連づけた内容を書いてくれていました。ちなみに「教育学でなぜこんな内容をやらなければいけないの？」などという感想は出てきません。これは，授業のはじめに「みること」が日本の教育に欠けていること・「みる力」をつけるためには看図アプローチが効果的であること等の「学びの理由・意味」をきちんと伝えているからです。このように，**「学びの理由・意味」を明確にすれば，「え？」と思うような題材でも，学生さんたちは納得し楽しみながらついてきてくれるようになります。**これから看図アプローチを取り入れてみようと考えておられる先生方も柔軟にご自身の領域に関連づけて応用して頂ければと思います。

ビジュアルテキストを読み解く力・学んだことをキャリア意識と結びつける力は一朝一夕には身につきません。しかし看図アプローチ基盤型の授業を繰り返し実施することで，学生さんたちは他の人の見方を取り入れながら情報を取捨選択し，自然に自ら深い学びへと昇華していくことができるようになります。無理もなく，押しつけでもなく，自然に「主体的・対話的で深い学び」が実現できます。この発表の内容は『全国看図アプローチ研究会研究誌』5 号からシリーズで掲載しています（石田 2021a,2021b,2021c）。よろしければぜひご覧ください。

図 1　鹿内先生発表の様子

Ⅱ－２　田中伸子先生（長崎県央看護学校）の発表

田中先生は「カリキュラムマネジメントからみた長崎県央看護学校における看図アプローチの意味－教員全員で取り組むとこうなる！－」をテーマにご発表くださいました。長崎県央看護学校（以後，県央さん）は「教員全員」つまり「学校まるごと看図アプローチの授業づくり」に取り組んでおられる学校です。思わず「県央さん」と呼びたくなる，あたたかなまとまりを感じる存在です。県央さんのすごいところは，先生方みなさんでビジュアルテキストづくり・発問づくりについてしっかり向き合っておられるところです。意外性のある発問にするには？どこに学びをもっていく？等々，学生さんに授業をする前に教員同士が学び合っています。その結果，先生方みなさんが「脳にスイッチが入る（鹿内 2016,p.4）」を実感し，納得し，看図アプローチによる授業づくりを継続されています。先生方自身が「主体的・対話的で深い学び」を実現しているのです。このような取り組みによって，教員間のコミュニケーション能力が向上しているということも特筆すべき点です。見て話し合うことで各教員の視野が広がり，結果として教員の資質・能力向上につながっています。さらに，様々な授業で看図アプローチが活用されているため，学生さんたちも学習方法を理解しており，授業自体がスムーズに進行していけるというのです。教員全体で取り組むことでメリットが何倍にも大きくなっているようです。ワークショップとして，そんな県央さんの職員室での一場面がビジュアルテキスト（図２）として呈示されました。

「もの」を取り出したあと，この写真は「ある依頼に応えるための仕事中の場面」であることが伝えられました。さて「ある依頼」とは？個人思考後にチャット回答を行いましたが，ここではタネあかしはせず，２日目プログラムへのお預けとなりました。気になるじゃないですか田中先生！そして動機づけがお上手！予測させておいて次回に確認。なるほど，「予測－確認」の原理ですね。看図歴 16 年目の筆者（石田）もワクワクしてしまいました。

県央さんの努力の軌跡については『全国看図アプローチ研究会研究誌』５号の山下他（2021）論文で紹介されています。まだ読まれていない方はぜひ，お読みになって頂きたいです。そのすばらしい「同僚性」で今後も素敵に授業づくりを続けていかれることと思います。

図２　田中先生発表の様子

Ⅱ－3　菊原美緒先生（防衛医科大学校）の発表

菊原先生は「多職種連携教育への看図アプローチの導入」をテーマにご発表くださいました。はじめに写真を活用した自己紹介をして頂きました（図 3）。

図 3　写真を活用した自己紹介

筆者（石田）にはジャクソン - ポロックの作品に見えて仕方なかったのですが，れっきとした写真です。木々が生い茂り，一見するとどんな「もの」や「こと」が写っているのかなかなか定まらない「曖昧性」をもった写真でした。実際の授業でもこのようなビジュアルテキストを導入として読み解くと，頭がやわらかくなってその後の授業に入り込みやすくなります。実際のチャットではとても鋭い読み解きもあったのですが，参加されていない方にとってはネタバレになってしまうのでここでの紹介は割愛させて頂きます。菊原先生，とてもよいビジュアルテキストですので，ぜひまたどこかで発表されてください。

ワークショップでは A 短期大学幼児保育学科の学生さんを対象に実施された特別授業を再現して頂きました。360 度カメラで撮影した立体的ビジュアルテキスト（図 4）を，YouTube を介して呈示し，読み解きを行っていきました。そうして「病室のベッド上からの子どもの目線」を体験していきます。

そして，「この子は，ベッド柵につかまり，懸垂をしてしまうので危険がある。主治医の指示で手袋と靴下を履かせて危険を回避する対応をとった。」ということが伝えられました。主治医の指示に従うことによって，子どもはどのようになるか，派生してくる諸問題をどのように解決していくか等についてグループに別れてディスカッションを行いました。その後のチャットによる全体共有では「心と安全，どちらを取るのか。」「つかまり立ちしたいという運動欲求を満たしてあげないとね。」「倫理的にどうかと思う。本当に安全か確認する。人の目を増やす。」等の意見が出されました。「心の問題」についてなら心理学者，「運動欲求を満たすコツ」ならスポーツ選手の出番かもしれません。「倫理や安全」の問題なら，保育士や看護師だけでなく，親族等身近な人も含めた「多

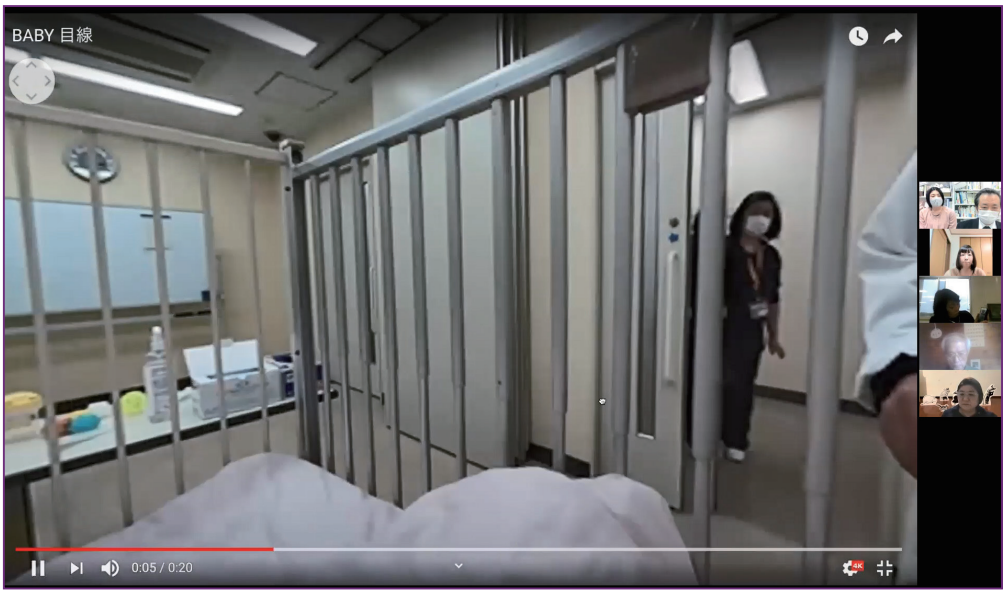

図 4　菊原先生発表の様子

職種連携」によって解決していくことができるでしょう。

この子ども目線による読み解きを体験した学生さんたちはどのようなことを考えたのでしょうか。KHコーダーを活用した分析によれば，ベッド・柵・医師といった物理的発見だけでなく，圧迫・不安・恐怖・寂しいといった感情的体験もしていたことがわかりました。立体的で臨場感のあるビジュアルテキストを活用することで，参加者自身がより自分事としてとらえやすくなったとみられます。子どもの目線体験から，目には見えない心境まで読み解き，「自分の立場・職業ならどんなことができるのか」を考える貴重な機会となりました。

Ⅲ．２回目プログラム（３月 23 日）

Ⅲ－１　「鹿内先生の」ご挨拶

研究会２日目の冒頭は，「2 分 !!」の「鹿内先生の挨拶？」動画から始まりました（図 5）。山下事務局長から「２分 !!」というテーマを与えられての企画です。そのテーマ通り放映時間は「2 分 !!」です。実はこの動画の制作には「20 時間 !!」かかっています。大事なことを伝えるためなら「2 分 !!」のために「20 時間 !!」かけるところが全国看図アプローチ研究会の心意気です。

この動画鑑賞のあと，続けて２名の先生方から実践発表して頂きました。おふたりとも「教員全員で看図アプローチに取り組む県央さん」の先生です。期待が高まります。共通テーマは「こんなオンライン実習やってみました－長崎県央看護学校の場合－」です。

図５　ご挨拶動画冒頭

Ⅲ－２　山口奈津子先生（長崎県央看護学校）の発表

山口先生は「1 枚のビジュアルテキストから」をテーマにご発表くださいました。学生さんたちは３年間「精神看護学」を学びます。しかしどんなに勉強しても，実習では患者様の問題点にばかり目が行ってしまい，ストレングスに着目することができなくなってしまいます。新型コロナの影響で実習先で学ぶことができない学生さんたちのため，山口先生は「実際の患者様のベッドサイドを再現して実習らしく学ぼう！」と思いつきます。その場面をビジュアルテキスト（図 6）とした授業を体験させてくださいました。

看図アプローチの基本通り，はじめに「もの」を取り出していきます。個人思考のあとチャット

図６　山口先生発表の様子①

により回答していきました。ここでは「写っている『もの』を○個あげてください」ではなく「写真の中に写っている『もの』を１分間でできるだけたくさんあげてください」という発問をされました。看図アプローチの授業では前者の「もの」発問を使われることが多いのですが，後者の「もの」発問は時間制限の中で「他の人よりいっぱい見つけよう」という良い意味での競争心が生まれ，動機づけにもとても効果的だと考えられます。看図アプローチでは「適度な競い合いも OK（鹿内 2015,p.73）」なのです。個人思考のあとは集団思考です。チャットに出されたたくさんの回答に目を通す時間が設けられました。これにより対話的学びが実現されます。時間は１分でした。このとき山口先生は「1 分間他の方のチャット回答を見てみてください」と仰いました。このように集団思考の時間を確保する指示はとてもわかりやすくていいなと思いました。チャットを活用した授業の際にはぜひ真似させて頂きます。

ところで，このチャットで「無印の袋」と書かれた先生が数名おられました。これは「ビジュアル」ではなく「文字」情報からの発見なのですが，言われると「はあ～なるほど」と素直に感心できました。図６の写真は，ビジュアルテキストと文字情報が効果的に組み合わされたミックスドテキストになっていたのだと思います。

次に「こと」発問です（図 7）。「この患者様（A さん）はどんな『力』をもっていますか？」これは秀逸な発問です。その患者様の問題点ではなくストレングスに目を向けることにつながる発問だからです。患者様のもっている「力」に気づくことができれば，患者様本人には自信をもたせることができ，学生さんはその患者様の個別性を発見することができます。多様性について考える機会にもなるでしょう。

「どんな力をもっている？」発問について２分間個人思考しながらチャット回答していきました。そして１分間，チャット回答を見る時間が設けられました。回答内容の共有の中で須藤文先生（久留米大学）は「ベッド柵が頭の方にある。これは落ちないための配慮からで，寝返りをうつ力をもっている。」と読み解かれていました。また例示された学生さんの回答としては「新聞があるところから社会問題等色々なことに興味がある。」「ゴミ箱にゴミが入っているのでゴミの処理ができる。」「履物があることからベッド以外の場所で過ごせる。」等々，様々な見方を展開してくれていました。どれも納得のいく読み解きです。山口先生のご専門は「精神看護」ということで，専門外の人には難しそうと感じる分野です。しかし，短時間でも，参加者の職種や分野が違っても，一緒に考えられる。そんな看図アプローチの良いところが存分にいかされたワークショップでした。

なお，写真の左側に写っている靴は，偶然写り込んでしまったものだそう。山口先生は学生さんが「もの」として取り出したときに初めてその存在に気がついたそうです。ビジュアルテキストをつくった本人の無意識にも学生さんはちゃんと気づいてくれたのです。このような偶然・無意識から大きな発見や感動をよぶのも看図アプローチの良いところです。

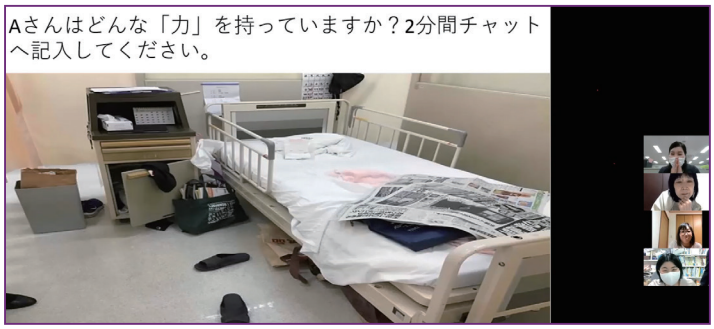

図７　山口先生発表の様子②

Ⅲ－３　隈上貴子先生（長崎県央看護学校）の発表

隈上先生は「実習評価に看図アプローチを使ってみました－学生の力に驚いた！父よ，ありがとう－」をテーマにご発表くださいました。とくに看図アプローチを活用した訪問看護実習に関する報告です。施設実習が中止になったときの工夫の仕方とその評価について発表されました。

オンライン実習授業のために，隈上先生は多職種（理学療法士・療養者の家族・薬剤師・介護士・看護師）の立場から看護を考える動画を作成されました。訪問看護に関する動画は学生さんたち自身が訪問看護師役となって実演し動画を作成しました（図８）。学生さんたちが作成した動画の共有は，オンデマンド配信またはライブ配信によって行われました。

学生さんの動画では，ぬいぐるみを使用したり家族の協力を得たりして，看護シミュレーションを行います。撮影中に飼い犬が乱入した学生さんは，その飼い犬を療養者の家族に見立て労いの言葉をかけるなど臨機応変に対応した，という事例もあったそうです。隈上先生は動画のクオリティーの高さと，動画を見る学生さんたちの真剣な姿にとても驚かされたそうです。

さて，この実習の「評価」はどのようになされたのでしょうか。隈上先生は８枚の写真を呈示し（図９），「訪問場面を想定した動画の作成や実演のプレゼンテーションを受けての学びをこの中から１枚選んで説明してください」のように伝えました。学生さんは自分が選んだ写真について読み解き，訪問看護と関連づけた文章を書いてくれていました。

例えば３番のピザの写真を選んだ学生さんは「何が必要か考え，計画を立て，準備，食べて評価する過程が必要と思った。」「ピザのように訪問看護という土台は同じでも看護はトッピングのように人それぞれ違っていて個別性があると感じた。」のように記述していました。どの写真に対しての記述も，よく考えられた内容になっていました。学生の力はすごい！です。

隈上先生はこれらの写真を選んだ意図について，「（理由をつければつけられるけれど）『無意識』だった」とおっしゃました。先の山口先生のご発表の中にも「偶然」「無意識」という言葉が出てきました。教員が意識して考えすぎると，答えを誘導するようなビジュアルテキストや発問になってしまいます。ですから，偶然や無意識といった「考える余白」のようなものがあるからこそ，学生さんから思いもよらぬ回答を引き出すことができるのだと思います。

最後に，オンライン実習用に隈上先生が作成された動画は実は……。これは隈上先生ご自身の体験と大きな関わりがあるものでした。ですので，私からお伝えすることは難しいです。２日目プログラムに参加されていない方にはわけがわからないかもしれませんがご了承ください。隈上先生，本当に心打たれるご発表でした。研究誌や他の発表機会などでぜひお伝えして頂ければ幸いです。

図８　隈上先生発表の様子

図９　写真を活用した「評価」

Ⅲ－4　山下雅佳実先生 (中村学園大学）の発表

山下先生は全国看図アプローチ研究会の事務局長！トリです。「コロナに負けない！ NK 細胞活性を上昇させる『山下流看図アプローチ』」。いってみましょう。

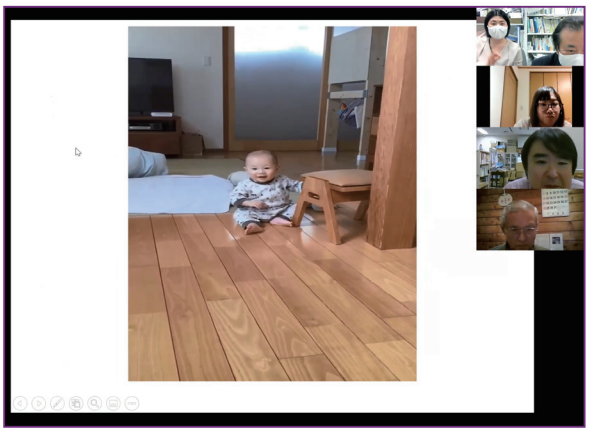

図 10　山下先生発表の様子

はじめに 21 秒の動画が呈示されました（図 10）。動画を見たあとで定石の,「もの」発問です。個人思考しながら 10 個書き出し，それをチャットに書き込んでいきます。書き込みの中には「タオルケット」「お母さん」「坊主頭」「ぬいぐるみ」等々あり，中でも「ルンバ」は山下先生も驚かれていました。見逃さなかった県央さんの藤井愛美先生，さすがですね。

図 11　動画のあとどうなるか予測

チャットで「もの」を共有したら, 次は「こと」発問です（図 11）。

この動画の 5 秒後，この子はどんな顔をしているか，について予測します。①～⑥から 1 つ選び理由も考えます。投票機能を活用しての個人思考です。 3 分で投票したあと，全体共有をしました。例えば⑤を選んだ県央さんの渡邊玲子先生は「お母さんがおやつか何かを持ってきて，それに喜んだ。」同じく⑤を選んだ稲葉太香子先生（東京医療学院大学）は「親御さんに『よくがんばって歩いてきたね』と言われて喜んだ。」と予測されていました。さて確認ですが，これもネタバレは控えたいと思います。山下先生，また何らかのかたちで発表されてくださいね。山下先生は現在「保育」に関する授業をされているということで，この動画から子どもの安全管理・ハザードとリスクについて考えてもらえるようなパワーポイントをまとめられていました。

さあ, いよいよ研究会も大詰めです。最後のワークは，なんと，21 日（1 回目）プログラムで田中先生が「確認は次回に」と言われていた「ある依頼に応えるための仕事中の場面」の「ある依頼」の答えになる内容でした。その依頼とは，山下先生が県央さんに「看護教員の国家試験問題をつくり，写真で送ってください」というものでした。完成した看護教員国家試験問題は次のようなものです。

問 3923

次の文章の㋐と㋑にあてはまるビジュアルテキストを選びなさい。そして，なぜそのビジュアルテキストを選んだのか理由を説明しなさい。

「私は, この研究会に参加する前は（㋐）だったが，今は（㋑）である。選んだ理由は～。」

すごい問題数ですね。ってそこじゃないですね。センス抜群の県央さんの先生方がどんなビジュアルテキストをつくられたかというと…図 12 です。

図 12　看護教員の国家試験問題写真

インパクト大！

なビジュアルテキストです。こんな問題が 3923 番目に出題されたら，それまでの解答でくたくたになった受験生もびっくりして NK 細胞が超活性化されそうです。チャットの紹介は省略しますが，多くの参加者がポジティブな解答をされていました。

Ⅳ．全国看図アプローチ研究会は歩み続ける

ということで，いかがでしたでしょうか。研究会終了後には鹿内先生のもとにたくさんの御礼のメッセージが届きました。李軍先生（早稲田大学）のメッセージには次のようなことが書かれていました。「県央の先生方って，本当にすごいなぁと羨ましく思いました。**どんなリクエストにも応えてくれる心強い仲間がいる**んだなぁと，改めて看図アプローチの強みを感じさせられました。」これは，山下先生と県央さんの絆を讃えている言葉です。山下先生は 2017 年から北海道にいる鹿内先生に代わって県央さんに通い，**看図アプローチのすばらしさ**を根気強く伝え指導を続けてきてくれました。県央さんはその熱意に応え続けてきてくれました。看図アプローチの世界をつくってきた鹿内先生も筆者も，山下先生・県央さんを誇りに思っています。

今回，先生方にはそれぞれの立場からアイデアに富んだ発表をして頂きました。**看図アプローチの授業を成功させるためには，ビジュアルテキストづくり・発問づくり・学習者実態に応じた環境づくりが必須**です。ビジュアルテキストづくりと発問づくりはセットです。「ものこと原理」だけでも上手くいくこともありますが，今回の山口先生の「どんな力が」発問のように，よいビジュアルテキストとよい発問がピタリとくればもう無敵です。

そう遠くないうちにまた研究会を開催する予定です（鹿内先生 said）。再び皆様にお会いできますことを心より楽しみにしております。「ひっそりと精力的に」ホームページも更新しています。（「ひっそりと精力的に」は鹿内先生が大切にしているモットーです。）時々のぞきに来て頂ければ幸いです。今後とも全国看図アプローチ研究会をよろしくお願い申し上げます。

引用・参考文献

石田ゆき　2021a 「看図アプローチを活用したオンライン授業の実際－医療系大学における『教育学』授業を例にして－」『全国看図アプローチ研究会研究誌』５号　pp.3-16

石田ゆき　2021b 「看図アプローチを活用したオンライン授業の実際（２）－写真をビジュアルテキストにした『教育学』授業のすすめ方－」『全国看図アプローチ研究会研究誌』６号　pp.16-29

石田ゆき　2021c 「看図アプローチを活用したオンライン授業の実際（3）－ビジュアルリテラシーを定着させるための『教育学』授業のすすめ方－」『全国看図アプローチ研究会研究誌』７号　pp.3-18

鹿内信善　2015 『改訂増補 協同学習ツールの

つくり方いかし方 看図アプローチで育てる学びの力』ナカニシヤ出版
鹿内信善　2016 「看図アプローチが導く主体的学び」『主体的学び』4 号　pp.3-17　東信堂

注 1　これらの授業について鹿内他は，関連論文を多数公刊しています。参考までにこれらの授業に関する鹿内他の研究文献リストをまとめておきます。またその際，第 2 筆者以降の氏名 ローマ字表記に関わらず公刊年次の順に文献名を配列します。

鹿内信善・伊藤裕康・石川清英・石田ゆき・伊藤公紀　2009a 「ヴィジュアルテキストの読解指導を取り入れた大学授業の改善 (Ⅰ) ー『景観行政論』導入部分の授業づくりー」『道都大学紀要美術学部』　第 35 号　pp. 11-19
鹿内信善・伊藤裕康・石川清英・石田ゆき・伊藤公紀　2009b 「ヴィジュアルテキストの読解指導を取り入れた大学授業の改善 (Ⅱ) ー『花時計』を教材にした『景観行政論』の授業づくりー」『道都大学紀要美術学部』 第 35 号 pp.21-41
伊藤裕康・石川清英・石田ゆき・伊藤公紀・鹿内信善　2010 「ヴィジュアルテキストの読解指導を取り入れた大学授業の改善 (Ⅲ) ー『景観行政論』導入部分の追実施ー」『道都大学紀要美術学部』 第 36 号　pp.11-19
伊藤裕康・石川清英・伊藤公紀・石田ゆき・鹿内信善　2010 「ヴィジュアルテキストの読解指導を取り入れた大学授業の改善 (Ⅳ) ー『花時計』を教材とした『景観行政論』の追実施ー」『道都大学紀要美術学部』 第 36 号 pp.21-46
鹿内信善・石川清英・伊藤裕康・石田ゆき・伊藤公紀　2011 「ヴィジュアルテキストの読解指導を取り入れた大学授業の改善 (Ⅴ) ー『水』をキーワードにした『まちづくり概論』の授業づくりー」『道都大学紀要美術学部』 第 37 号　pp.67-84
鹿内信善・石川清英・伊藤裕康・石田ゆき・伊藤公紀　2012 「ヴィジュアルテキストの読解指導を取り入れた大学授業の改 善 (Ⅵ) ー『水』をキーワードにした『まちづくり概論』の授業づくり (その 2) ー」『道都大学紀要美術学部』 第 38 号　pp.47-68
石川清英・伊藤裕康・石田ゆき・伊藤公紀・鹿内信善　2013 「ヴィジュアルテキストの読解指導を取り入れた大学授業の改善 (Ⅶ) ー『水』をキーワードにした『まちづくり概論』授業の追実施ー」『道都大学紀要美術学部』 第 39 号　pp.39-58
鹿内信善・石川清英・伊藤裕康・石田ゆき・伊藤公紀　2013 「ヴィジュアルテキストの読解指導を取り入れた大学授業の改善 (Ⅷ) ー『まちづくり概論』の導入部分の教材づくり・授業づくりー」『道都大学紀要美術学部』 第 39 号　pp.59-74
鹿内信善・伊藤裕康・石川清英・石田ゆき・伊藤公紀　2013 「ヴィジュアルテキストの読解指導を取り入れた大学授業の改 善 (Ⅸ) ー『くらしと景観』と『まちづ くり概論』の接続ー」『道都大学紀要美術学部』 第 39 号 pp.75-89
伊藤裕康・石川清英・石田ゆき・伊藤公紀・鹿内信善　2014 「ヴィジュアルテキストの読解指導を取り入れた大学授業の改善 (Ⅹ) ー『産業景観』を教材とした『くらしと景観』授業の追実施ー」『道都大学紀要美術学部』 第 40 号　pp.57-67

＊手に入りにくい論文もあります。各論文 にアクセスできない場合には全国看図アプローチ研究会ホームページお問い合わせフォームよりご連絡ください。

2021 年 3 月 31 日受付
2021 年 4 月　5 日受理